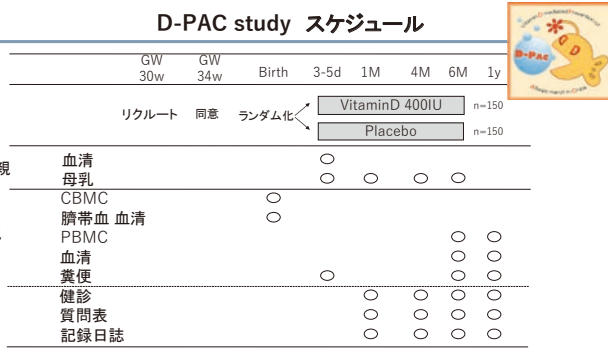


ビタミンDのアトピー予防研究

中野 泰至 先生

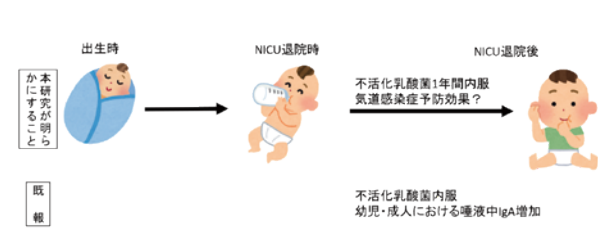
我々免疫グループでは一つの柱としてアレルギー疾患の発症予防に力を入れて研究を行っております。近年の国内外の疫学調査から母体・小児のビタミンD (VD) 欠乏の頻度が多く、VD低値が感作・アレルギー発症に深く関与する可能性が示されている。欧米においては母乳栄養児に対してVDサプリメントの追加が推奨されているが、本邦においては推奨されていない。同じくVDサプリメントの推奨がされていないオーストラリアにおいてVDによるランダム化無作為介入研究が行われているが、VDに対する効果については人種差及び日光照射などの影響から地域差がある可能性があり日本における介入研究が必要である。

そこで出生早期から乳児にVDを経口的に摂取してもらい、VDが感作・アレルギーを予防できるかを検証することを目的としてVDシロップ及びプラセボを用いた無作為ランダム化比較試験 (Vitamin D mediated Prevention of Allergic march in Chiba (D-PAC)) を2019年度から開始している。2022年8月末で最後の健診が終了となり、キーオープンとなるため良い結果を期待している。



NICU退院児へのK15乳酸菌投与による感染予防の前向き研究

菱木 はるか 先生



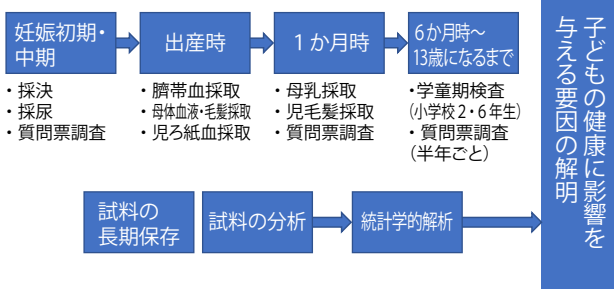
私たちは、加熱K15乳酸菌を用いた感染予防の研究を行っています。K15乳酸菌は、(株) キッコーマンにより糠床から分離された乳酸菌で、IFN- β 産生誘導活性を指標に選抜されました。幼児を対象とした先行研究において、他の乳酸菌食品の摂取が少ない低年齢の児において発熱日数が退縮し、唾液中のIgAが有意に増加したことから、その有効性が期待できました。そこで今回、NICUを退院した早産児に対する乳酸菌の感染予防の前向き研究 (二重盲検試験) を計画し行っています。ワクチンや抗菌薬に依らない個体側の免疫能を高める方法のひとつとして、乳酸菌による感染予防が期待されます。

エコチルコホート研究の今

高谷 里依子 先生

エコチル調査は、2011年に環境省がスタートさせた出生コホート調査です。国立環境研究所、国立成育医療研究センターと全国15地域のユニットセンターが中心となって実施しており、約10万組の子供たちとその両親について、妊娠初期から13歳までの、健康状態を定期的に調査しています。今後、成人期まで調査を延長する計画を策定中です。千葉大学予防医学センター (センター長：森千里環境生命医学教授) は、千葉ユニットセンターとして約6,000組を追跡し、生活環境、生活習慣、遺伝的な要因が子どもたちの成長や健康とどのように関係しているかを調べています。

エコチル調査の概要



お知らせ

◆小児科学教室へのサポートのお願い◆

小児科学教室への寄附を募っています。税制上の優遇措置もございますので、小児科学教室の発展のために先生方のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

同門会HP ▶



患者さんのご紹介について

発熱や感染症が疑われる患者さんについては原則、症状軽快まで個室隔離とし個室料は請求していません。

★川崎病が疑われる患者さんをご紹介ください。鑑別診断をしっかり行い、治療の質も高めています。患者さんへの説明を丁寧に行い、満足度の高い診療を行っています。外来フォロー時も最新情報を提供しています。

★難治性アレルギー・リウマチ疾患の患者さんをご紹介ください。抗体薬を含めた専門治療を提供しています。

★不明熱や未診断の患者さんをご紹介ください。多専門領域の医師が診断をし、患者さんに最も適した治療を計画し行っています。専門に取り組む施設がある場合は診断後、転院紹介もしています。

ICU内にPICU (Pediatric ICU) 1床をもうけ運用しております。集中治療が必要な症例をご紹介ください。

■外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
専門	一般/神経/循環器/移行期心疾患	感染症/血液腫瘍/臨床法医	内分泌/新生児/感染症/神経	免疫・アレルギー	一般/循環器/新生児/臨床法医
担当医	濱田 洋通	長澤 耕男	高谷 具純	中野 泰至	濱田 洋通
	塩濱 直	日野 もえ子	平田 優	山本 健	奥主 健太郎
	内田 智子	カ石 浩志	吉川 聡子	佐藤 裕範	小林 弘信
	内川 英紀	石和田 稔彦	金野 友紀	山出 史也 (※第2・4)	葉 ゆり
	岩瀬 由紀子	齋藤 直樹	大曾根 義輝		遠藤 真美子
	萩原 翔		石和田 稔彦		齋藤 直樹
	齋藤 千尋		藤井 克則 (※第1・3・5)		江畑 亮太 (※第1・3)
	石井 徹子 (※第1)				
	東 浩二 (※第3)				
	池原 甫 (※第3)				



千葉大学病院小児科

愛の花
NOHANANA*News

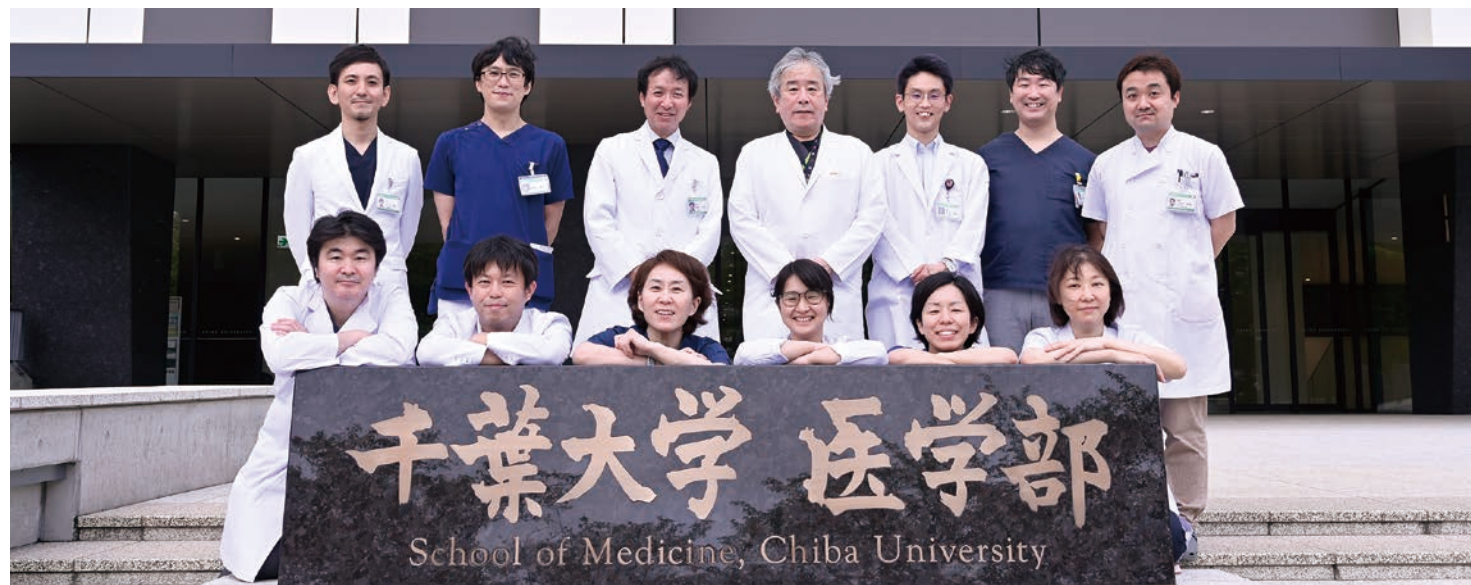
3号
2022年10月

ごあいさつ

同門、関連病院の先生方、関係各位、いつもお世話になっております。千葉大学病院小児科の活動を報告するニュースレター第3号をお届けします。2022年度はフレッシュな4名のドクターを迎え、皆はりきって臨床、研究、教育に取り組んでいます。診断が難しい、標準治療に反応が悪い、複合の疾患があり管理が難しい、ハイリスクの出産だ、こういった子ども達をご紹介します。患児とその家族に満足度の高い診療を行います。臨床課題から患者に還元できる研究を行っています。断らない医療を実践できる、他職種と連携できる小児医療者の育成をしています。

末筆ながら、皆様のご健勝と益々のご発展を祈念しております。

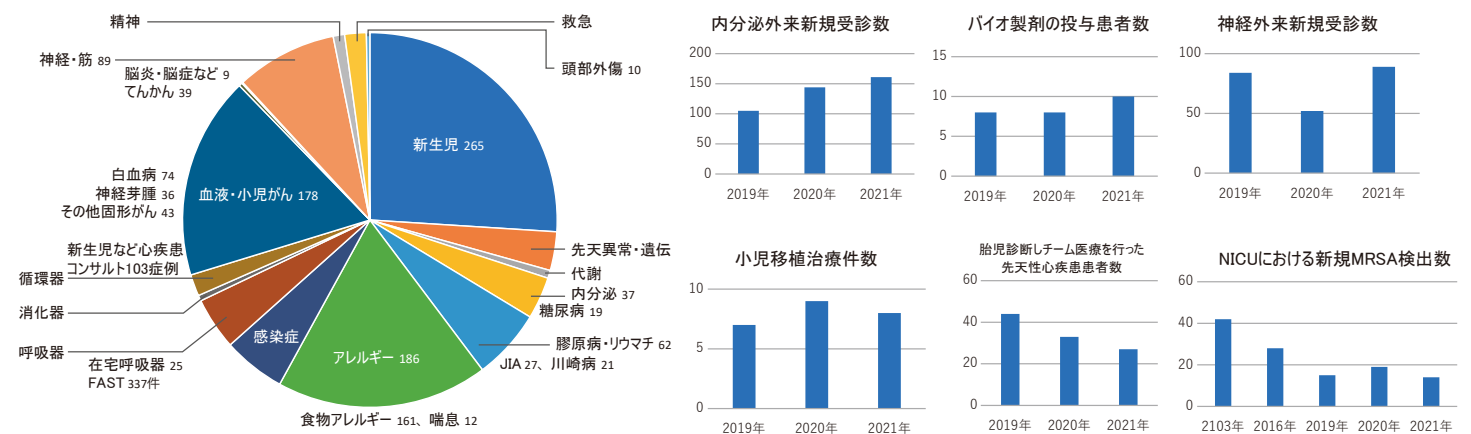
濱田 洋通 (小児科教授)



2022年度小児病態学スタッフ (2022年5月)

後列左から：山本 健、長澤 耕男、濱田 洋通 (科長・教授)、大曾根 義輝 (周産母子センター長)、高谷 具純 (医局長)、塩濱 直 (病棟医長)、カ石 浩志
前列左から：中野 泰至 (外来医長)、奥主 健太郎、日野 もえ子、遠藤 真美子 (NICU・GCU病棟長)、奥主 朋子、内田 智子 (副医局長)

2021 千葉大学病院小児科・NICU 診療実績と臨床指標 (抜粋)



3名の先生が異動されました (2022. 3)

千葉大学医学部附属病院小児科を離れて

帝京大学ちば総合医療センター小児科准教授
菱木 はるか 先生

令和4年3月に、帝京大学ちば総合医療センター小児科へ異動となりました。千葉大には、19年間もお世話になりました。感染班・医学教育担当として在籍し、多くの臨床・教育経験を積ませていただきました。育児の時期に皆様にご大助けていただき、感謝しています。現在は20数年振りの懐かしい職場であたふたしつつも当直、ICT活動、医学生・研修医指導などを何とかやっています。限られたリソースで最善の医療を行う難しさを痛感しています。千葉大小児科の先生方にはいつもご相談、お受入れに快く応じていただき、ありがとうございます。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

千葉市立海浜病院に異動しました

千葉市立海浜病院
江畑 亮太 先生

4月に千葉市立海浜病院小児科／成人先天性心疾患診療部に異動しました。海浜病院は海のそばにある病院です。青海原と白波、疾走するヨット、房総半島、東京スカイツリー、富士山等々心癒やされる風景をふとした瞬間に目にし、仕事帰りに海辺を散歩したり、日本サッカー協会のトレーニング施設（高円宮記念JFA夢フィールド）がある幕張の方までサイクリングしたりと、いい気分転換になります。海浜病院で小児医療全般を学び直し、成人診療を新たに学びながら、患者および患者家族のお役に立てるよう努めていきたいと考えています。

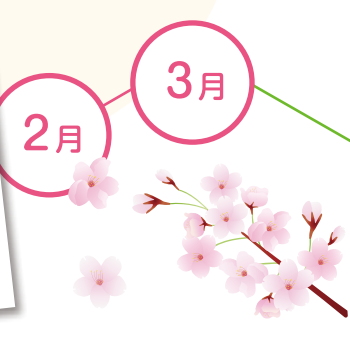
国際医療福祉大学成田病院小児科に異動しました

国際医療福祉大学成田病院小児科准教授
山出 史也 先生

藤井教授のもと6人体制で診療・卒前教育を行っています（教育や英語のウエイトが大きく結構大変...）。これまで千葉県北部にはアレルギーやリウマチ専門医の病院常勤医がいませんでした。アレルギー・免疫外来に加え、看護師とともにアトピー外来も新設し、赴任後4ヶ月で50人を超える患者様をご紹介いただけており、地域のアンメットニーズ解消に役立てていければ幸いです。また千葉大と同様にコメディカルの方々のモチベーションが高く、勉強会や知識の診療への実践にも熱心で、よりよい医療を一緒に進めていける環境です。ご興味のある方はお気軽に見学にいらしてください。



▼ 3月30日、小児科外来で送別会



2月

3月

各病棟班近況報告

◎ 1班

日野 もえ子、力石 浩志、
奥主 朋子、山下 喜晴

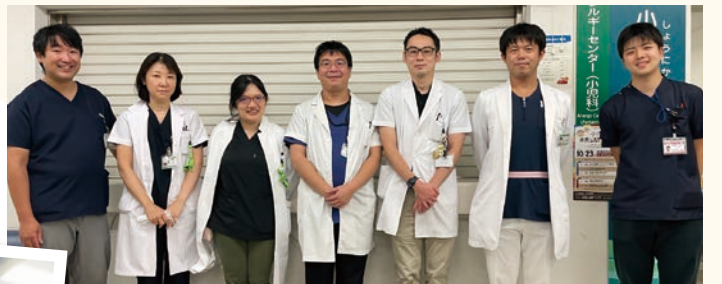
小児血液がんを専門とする班です。4月から6月の新規診断はALL 3例、急性前骨髄性白血病 1例、腎芽腫 1例、再発AML 1例でした。3月末に当院小児 1例目となるCD19-CAR-T細胞療法を行いました。稀な軟部腫瘍や難治例の治療方針については県内小児血液グループの先生方と繰り返しカンファレンスを行い治療決定しました。



◎ 3班

奥主 健太郎、小林 弘信、葉 ゆり、塩濱 直、
内田 智子、萩原 翔、齋藤 千尋

3班は循環器と神経の混合チームです。2023年上半期には、循環器グループを中心に、川崎病、先天性心疾患、急性心筋炎、特発性及び横隔膜ヘルニア合併の肺高血圧症、拡張型心筋症、二次性高血圧症、肺高血圧症や川崎病冠動脈瘤の心臓カテーテル検査、乳児血管腫の治療、抗がん剤使用後や膠原病患者の心評価、学校心臓検診の精査依頼への対応を行いました。神経グループを中心に、脊髄性筋萎縮症（アンチセンス核酸治療）、巨脳症-毛細血管奇形症、ミトコンドリア脳筋症、レット症候群、Sturge-Weber 症候群、難治性てんかん、神経性食思不振症、West 症候群、胎児診断された脳形成異常、血流障害に伴う末梢神経障害などの診療を行いました。



◎ N班

大曾根 義輝、遠藤 真美子、
岩瀬 由紀子、吉川 聡子

今年度は新生児研修の吉川聡子先生が加わり、4～5月は海外留学前の岡田玲緒奈先生も含めて6名＋初期研修医にぎやかな始まりでした。4～6月の入院数はのべ62件、極低出生体重児9例（うち超低出生体重児3例）、外科手術3件（横隔膜ヘルニア1例、食道閉鎖1例、消化管穿孔1例）。年明けから始まったCOVID-19の第6波が5月で落ち着きCOVID-19陽性者の分娩対応が一段落しましたが、7月からの第7波ではさらに患者が増加し産科ともに対応に追われています。その中でも例年通りNCPR院内Aコースを開催、受講者24名で多診療科の交流もあり有意義な時間となりました。



▲ 4月、専攻医と教授（左から図師 健太、渡邊 啓、太田 遼）

4月

◎ 2班

中野 泰至、山本 健、佐藤 裕範、
長澤 耕男、高谷 具純、平田 優

2班はアレルギー・免疫、感染、内分泌でチーム診療を行っています。本年度からメンバーが大幅に入れ替わり朝夕のカンファレンスも活発に議論が行われており良いチーム診療ができております。4～6月は膠原病の入院患者が多く、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、全身型若年性特発性関節炎、小児COVID-19関連多系統炎症性症候群の治療を行いました。また、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、先天性副腎皮質過形成症の対応も行いました。さらに、食物アレルギーの食物経口負荷試験も多数行いました。発育不良児、蘇生後患者の在宅医療の移行、頭部外傷の児の対応や、Family Support Teamの介入が必要な症例に対してもチーム全員で協力して対応を行いました。



5月

6月

7月



12月24日
患者さんから病棟に
クリスマスプレゼント▼



12月

1月
2023



新入職者紹介

この春から一緒に働いている
大学病院新入職のドクターを
ご紹介します。



アレルギー・免疫グループの一員として7年ぶりに大学病院に勤務しています。謙虚さを2022年のテーマにしています。と言いますのも、直前まで米国におよそ3年間基礎研究留学していたため、卒後15年目ですが、久しぶりの臨床現場からです。ここまで、全ての同僚の人間性に救われながら心穏やかに過ごしています。大学病院は人材の宝庫です。大学病院ならびに小児科医局の存在意義をより一層高められるよう、尽力します。

山本 健 先生

はじめまして。小児科専攻医1年目の太田遼と申します。大学時代は陸上部に所属しており、今でも休日は趣味のランニングを楽しんでいます。こども達の治療だけでなく、ご家族のサポートや社会支援も含めて一緒に向き合っていきます。一人でも多くのこども達の笑顔が見られるように一生懸命、頑張ります。こども達の成長を見守りながら、自分自身も小児科医として成長できるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

太田 遼 先生

4月から大学で勤務しております、アレルギー免疫グループの佐藤裕範です。昨年度まで大学院の研究として、かすさDNA研究所に所属しプロテオーム解析やバイオインフォマティクスについて勉強してきました。今年度は、より専門的な分野の知識や技術を身に着け、様々なリサーチエディションを持ちながら日々邁進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤 裕範 先生

4月から小児科で勤務しております、平田優と申します。松戸市立総合医療センターで後期研修を修了した後に入職させていただきました。現在は小児内分を専門として診療を行っています。専門以外の小児患者を診療する機会も多く、まだまだ勉強できることがたくさんあると感じています。子どもたちとその家族に安心していただける医療を提供できるよう、精一杯頑張ります。

平田 優 先生

小児科3年目、吉川聡子と申します。専門班は内分泌です。今年度は、新生児研修をメインに、週1回内分泌の外来をさせていただいています。出身は高知県ですが、縁があり千葉県に来て早3年が経ちました。少しでも千葉県の小児医療に貢献できるよう、頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

吉川 聡子 先生

2022年度千葉大学小児科プログラムに入りました、図師健太と申します。出身大学は青森県にある弘前大学で、初期研修も青森県の市中病院で行いました。千葉ではバス停やラーメン屋の前、病院の入口に行列ができており、人口の多い地域に来たことを実感する毎日です。千葉県での豊富な症例とともに、多くを学んでいく所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

図師 健太 先生

千葉大大学院卒業後、千葉県こども病院循環器科で3年間先天性心疾患を診療し今年度より大学病院に戻りました奥主健太郎です。千葉県佐原市出身です。循環器グループ長として他院との連携、専門診療の強化を進めていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

奥主 健太郎 先生

今年度より専攻医として入職しました、令和2年卒の渡邊啓と申します。医学部入学前より小児科医を目指していたこともあり、小児科での日々は非常に充実しております。研修を通じて少しでも早く成長し、役に立てるよう、また子ども・家族に信頼される医師になれるよう精進していく所存です。ご指導宜しく願いいたします。

渡邊 啓 先生

今年度、4年ぶりに大学病院勤務となりました感染症グループの長澤耕男と申します。懐かしい方々も多くいらっしゃる一方で、4年の間に病棟もすっかり新しくなっていて、とてもびっくりしています。小児医療に貢献できるよう、全力を尽くしていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

長澤 耕男 先生

2022年度より小児科神経グループとして千葉大学での診療業務に加わらせていただきました萩原翔と申します。昨年までは旭中央病院のNICUで3年間勤務しており、久々の小児科勤務となりますが、患者さんはもちろんのこと、患者さんご家族の皆様にも寄り添うことができる医師を目指して日々邁進してまいりますのでよろしくお願い致します。

萩原 翔 先生